

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375000284		
法人名	有限会社空		
事業所名	有限会社空グループホーム「ハーモニー」		
所在地	愛知県愛知郡長久手町長湫字西浦63-8		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	平成22年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2375000284&amp;SCD=320">http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2375000284&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 TMCサポート
所在地	愛知県名古屋市長和区鶴舞3-8-10 愛知労働文化センター3F
訪問調査日	平成22年2月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ゆっくりと流れる時間、ほっとできる空間で管理者・職員は利用者の気持ちを第一に考え、互いに助け合いの心を持ち、ともに生活をしている。訪問調査当日も利用者の表情は実に穏やかで職員と利用者が互いの信頼関係をうかがうことができた。利用者の残存能力を活かし、どの利用者にも活躍の場を提供することで、利用者の生きがいへと繋がっている。また、実施した家族アンケートからも、ホームを応援する声が多く寄せられており、現在、ホームで抱えている重度化への対応等課題はあるが、利用者・家族・管理者・職員の相互の理解と協力で乗り越えていくことを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域へ出かけていき(散歩も含む)、図書館や公園喫茶店等を利用している。その時々に出会った方たちに挨拶したり立ち話をしたりしている毎週行っているケアカンファレンスの中で理念を確認する機会があり、個別ケアの中に活かしている。	管理者・職員はホームが掲げた理念「地域で暮らす。集まって楽しく住む」を理解し、日々の支援で実現出来るように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩などで外出した際に出会った近所の人に挨拶したり、立ち話をしたりする程度。町内の自治会には加入しているが、特別なつきあいはない。	日常的な外出支援の中で地域住民との係わりを持つよう努めている。また、ボランティア等の受け入れを行い地域住民とのする機会を設け、認知症・グループホームへの理解を深めている。	利用者が地域と接点を持ち続けられるように、今後も継続的に地域への働きかけを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	求人難で職員数に余裕なく、また利用者の重度化で地域に貢献するだけの余裕はない。但し、人材育成とホームの風通しを良くするために実習生やボランティアは積極的に受け入れている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、事業所の毎月の活動内容を報告し参加メンバーから質問、意見、評価などを受け、それをカンファレンスで報告・検討し実践に反映している。	定期的に運営推進会議を実施し、ホームの活動報告等を行い、ホームの活動の理解を深めている。また、参加者から意見・要望等収集しサービスの質の向上に努めている。	更なる活動の充実と認知症・グループホームの取り組みの理解を深めることの観点から地域住民やボランティアの方等の運営推進会議への参加の働きかけを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議がきっかけとなり、町の担当者へ事業所の実情やサービスの取り組みを伝えることで、町の他の機関とも連携が取れるようになってきている。	町担当者と日頃から運営上の疑問点等を相談し、意見交換・情報交換を行い密接な関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員は身体拘束によって利用者が受ける身体的・精神的弊害については理解しており、開所以来一度も身体拘束は行っていない。	管理者は身体拘束排除の弊害を理解しており、排除のための取り組みを行っている。玄関の施錠等を含め、日々の支援の中でも身体拘束をしないケアが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所としては、虐待防止に努めているが「高齢者虐待防止関連法」については学ぶ機会を設けていない。(今年は、「高齢者虐待防止関連法」の勉強会を実施していきたい)	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員個々の認識はあるが、事業所としての取り組みは行っていない。(今年は地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ちたい)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧に説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度から、その思いを察する努力をし、利用者本位の運営を心掛けている。毎週1回行うケアカンファレンスの時に、利用者の要望や意見を出してもらう機会は作っている。	家族の意見・要望が直接事業所へ届くよう配慮されており、事業所側もその意見を取り入れ、運営に反映させて行く体制がある。また、重要事項説明書に外部への苦情受付窓口を明記し、利用開始時に説明を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週1回のカンファレンスの中で、職員の意見や要望を聴く場を設けているが、苦情等は言い難い部分も多いので把握しきれていない可能性もある。	管理者は、職員からの意見・要望を受け止め、検討する機会を設け、職員が意見・要望を出しやすい環境となるよう配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の求人難の中では、柔軟な対応に向けた勤務調整はできない。しかし、ギリギリの職員数の中でも利用者の自由な暮らしをできる限り支援できるように部分的な勤務調整には努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常的に学ぶことを推進し、非常勤の職員にもチームの一員として、研修・カンファレンス等に参加の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内に連絡会があり、その中で交換研修等を行い質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	大半の家族が入居を前提に相談されるので、まずは家族の苦労やサービスの利用状況など、これまでの経緯についてゆっくり聴くようにしている。話を聴くことで安心されるので、その後の入居の進め方を話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じ、地域包括支援センター等と連携しながら他のサービス機関につなげていく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという認識を全職員が共有しており、普段から利用者に教えてもらうという意識で、場面づくりや工夫を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者本位の運営を心掛けており、毎週1回のカンファレンスの時に、利用者の要望や意見を出してもらう機会をつ切っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、本人の思いや状況を見極めながら、外出や外泊で家族と一緒に過ごすことを勧めたり、行事に家族を誘ったりしながら、より良い関係の継続に努めている。	利用者の生活歴や日々の生活の中で意向の把握に努め、家族と協力することでホームだけでは実施困難なことも実現をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、時に個別に話を聴いたり、相談に乗ったりして利用者同士の関係がうまくいくように、職員が調整役となって支援している。また、心身の状態や気分、感情で日々変化することもあるので注意深く見守るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所へ移られた方の所へ、利用者と一緒に面会に行ったりしている。また、退所後の家族からの相談も受けている。管理者は他の事業所へ移られた方の面会を早い時期に必ず行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声をかけ、一人ひとりの思いや希望・意向の把握に努めている。意思疎通の困難な方にも常に声かけして、表情や発する言葉からその方の思いを把握しようと努めている。	一人ひとりの思いや意向を大切にし、日々の生活の何気ない言葉や表情から利用者の希望・要望をくみ取り、利用者本位に考え日々の支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	グループホームで生活の継続性を維持していくために、家族から情報を収集したり、本人自身にも記憶にあることを語っていただいている。また知人、関係者等の訪問時にも話をして情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解するとともに他の利用者との関係性も含め、その方の行動や小さな動作を通して感じ取り、本人の全体像を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員が情報を確認し、家族や本人の要望を取り入れつつ、期間が終了する前に見直し、状態が変化した際には終了する前であっても検討見直しを行っている。	定期的実施するカンファレンスで介護の方針を決定し、利用者の状態に合わせた具体的な支援内容を検討し作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々個別記録に記入することで、職員間の情報共有を行っている。また個別記録を基に介護計画の見直し、評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人と地域との様々な接点を見出し、周辺施設への働きかけやボランティアへの協力を呼びかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所とかかりつけ医の連携は十分にできており、2週間に1回訪問診療を受けている。通院が必要な場合は家族同行の受診となっているが、不可能な時には職員が代行するようにしており、利用契約時にその旨を説明し同意を得ている。	協力医療機関による月2回の往診がある。また、利用者・家族が希望する医療機関への通院は家族協力の下実施し、利用者の健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護職員がいない時間は、介護職員の記録を基に確実な連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、頻繁に職員が見舞うようにしている。また家族とも情報交換しながら、回復情報等速やかな退院支援に結びつけている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の重度化に伴って、事業所が対応し得る最大のケアについて説明し家族の了承を得て実践している。状態が変化した場合は、速やかに家族へ連絡し報告している。終末期のケアについては検討中である。	重度化の進行に伴い、高まるリスク等を家族に説明をし理解を求めている。また、利用者・家族の希望等考慮しホームとして出来ること、出来ないこと等話し合い方針を決定している。	重度化が進行に伴い、今まで出来ていたことが困難になってきている。今後も家族や地域と互いに協力し合い、ホームとして出来ることの幅を広げていくことに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、応急手当や蘇生術の研修を行ってきたが、今年度は事業所の看護職員により研修を行った。(22年度はすでに消防署へ予約済み)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、火災を想定した消防訓練は毎月行っている。地震等の災害については、年1回程度、避難訓練を行っている。	定期的に消防訓練を行い、防災に対する職員の意識の統一を図り、災害時には利用者を迅速に避難誘導できるよう訓練を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のケアにおいては、本人を傷つけることのないようさりげなく対応している。個人の秘密保守については、職員はもとより実習・研修生からも文書で誓約書を取り秘密保守の徹底に努めている。	スタッフは一人ひとりの生活歴・性格・特性を理解し、自尊心やプライバシーを損ねることのないケアを心掛けている。訪問調査の視察時では、スタッフが利用者に対し落ち着いた姿勢で傾聴・受容し、優しく対応していた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声かけし、意志表示が困難な方には表情を読み取ったりして、些細なことでも本人が決める場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その時の本人の気持ちを尊重して、できるだけ個別性のある支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の重度化に伴い、本人の意向は引き出せなくなっている。理容・美容についても出かけられなくなってきたので、訪問していただいている。しかし基本的には身だしなみやおしゃれは、日頃から気にかけて支援できるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューは利用者の声も参考にし、決める調理、配膳、片付け等は参加可能な利用者と共に。また、利用者と職員が同じテーブルを囲み楽しく食事ができる雰囲気づくりも大切にしている。	利用者一人ひとりの力を見極め、できることに関しては主体的に取り組みを行うことで、利用者の経験や知恵等を発揮できる機会に配慮し、利用者にとって食が楽しみになるように努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員は情報を共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性については全ての職員が理解しており、朝・昼食後と就寝前には、利用者個々の力に応じた歯磨き及び義歯洗浄の介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間や習慣を把握し、トイレ誘導することでトイレでの排泄を促している。失敗してしまった場合は、極力本人が傷つかないように手早く、周囲に気付かれない等の配慮しながら対応している。	職員は利用者の排泄パターンの把握や様子等を察知し、さりげない声かけ、誘導を行いトイレでの排泄を実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材(発芽玄米、キノコ、海藻、豆類芋類、野菜等)を積極的に取りれている。また体操や散歩、家事活動等で身体を動かす機会を適度に設けて、自然排便ができるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者のその日の希望を確認して、入っていただく。また入居して間もない方や、服を脱ぐことを嫌がる利用者には、職員も一緒に入り安心感を持ってもらう工夫をしている。	利用者のペースに合わせて入浴できるよう支援している。入浴中は職員も介助、見守りに徹し、安全に快適に入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。また、一人ひとりの体調や希望等を考慮して、ゆっくり休息がとれるように支援している。その他に、昼食後は午睡の時間があり午前中の疲れをとり、午後の活動の源にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の方法と薬の内容(目的、用法、副作用等)は個別に薬袋を作り、把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮できるよう支援している。調理や庭の草むしり、梅干しやらっきょ漬、干し柿づくり等利用者の経験や知恵を発揮する場面を作り、職員は利用者へ教えてもらうという姿勢と感謝の言葉を添えて共に楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	猛暑と厳冬期を除き、日常的に散歩に出かけている。また、利用者とは相談して外食、ピクニック、ドライブ等の楽しみごとを行っている。	日常的に外出する機会を設け散歩・買い物等を行っている。また、日常の会話で意向要望を聴きとり、利用者一人ひとりに合わせた個別支援を目標に取り組みを行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の要求に応じ、少額を手元を持っている人もいる。買い物や喫茶店を利用される方は、家族より一定のお金を預かり、必要時本人に手渡している。金銭の管理は事業所が行い定期的に家族・本人へ報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を利用される場合は、会話が他の人に聞かれないように場所の配慮をおこなっている。また手紙を書くという行為は、重度化に伴い大半の方が書けなくなっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	調理の音やご飯の炊ける匂い、心地よい音楽、ユズ湯や菖蒲湯、鍋料理やおせち、柏餅や水ようかんなど、五感や季節感を味わえるように意識的に取り入れ、工夫をしている。	利用者が集う共有空間は、季節感が感じられるように装飾等工夫している。また、天井が非常に高く開放感がある。訪問調査当日も利用者のリラックスした様子を見ることができた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に長椅子を置いたり、和室を利用できるようにして、一人で過ごしたり、仲の良い利用者同士でくつろげるスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやダンス、椅子以外にもそれぞれの利用者の好みや馴染みの物などを生活スタイルに合わせて用意していただいている。また使い慣れた目覚まし時計や小物、家族の写真なども持って来ていただき、安心して過ごせるよう配慮している。	居室内においては、利用者、家族の要望に応じて、家具等の配置を決めるほか、これまで使い慣れた物の持ち込みを可能とし、居心地良く快適に暮らせるよう本人の状態に合わせた居室となるように配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて、手すりや浴室、トイレ、廊下、玄関などの居住環境が適しているかを検討し安全確保と自立への配慮をしている。		

### 外部評価軽減要件確認票

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2）	評価
	日常的な外出支援の中で地域住民との係わりを持つよう努めている。また、ボランティア等の受け入れを行い地域住民とのする機会を設け、認知症・グループホームへの理解を深めている。	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3）	評価
	定期的に運営推進会議を実施し、ホームの活動報告等を行い、ホームの活動の理解を深めている。また、参加者から意見・要望等収集しサービスの質の向上に努めている。	○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4）	評価
	町担当者とは頃から運営上の疑問点等を相談し、意見交換・情報交換を行い密接な関係の構築に努めている。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6）	評価
	家族の意見・要望が直接事業所へ届くよう配慮されており、事業所側もその意見を取り入れ、運営に反映させて行く体制がある。また、重要事項説明書に外部への苦情受付窓口を明記し、利用開始時に説明を行っている。	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	○
総合評価		○

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ゆっくと流れる時間、ほっとできる空間で管理者・職員は利用者の気持ちを第一に考え、互いに助け合いの心を持ち、ともに生活をしている。訪問調査当日も利用者の表情は実に穏やかで職員と利用者が互いの信頼関係をうかがうことができた。利用者の残存能力を活かし、どの利用者にも活躍の場を提供することで、利用者の生きがいへと繋がっている。また、実施した家族アンケートからも、ホームを応援する声が多数寄せられており、現在、ホームで抱えている重度化への対応等課題はあるが、利用者・家族・管理者・職員の相互の理解と協力で乗り越えていくことを期待したい。

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
	(例示)
2. 事業所と地域のつきあい	① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
	(例示)
3. 運営推進会議を活かした取組み	① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取組みを行っている。
	(例示)
4. 市町村との連携	① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
	(例示)
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。